

藤野衆院議員や地団研メンバーも災害現場視察

台風19号による名立区と桑取地区の災害発生現場を連続して視察してきました。

20日には日本共産党の藤野やすふみ衆院議員が上越入りしました。同議員は、日本共産党上越市議団とともに、まず名立区東蒲生田へ行き、大規模な崩壊現場を視察しました。

民家のそばまで滑った土砂を防止するための緊急工事がすでに実施されていました。あとは山の中腹付近を通っていた川東用水路の復旧が大きな課題の一つです。

次に桑取地区の土口、北谷、皆口に行き、土石流による被害現場などを歩いて視察、被災された地域の人たちの要望をお聞きしました。

北谷は緊急復旧工事へ

このうち北谷では、「谷に堰堤がほしい」「市道を埋めた土砂の撤去を」「車庫から車を出せない」「風呂もト

イしも使えない」などの声を寄せていただきました。

これらについては翌21日、議員団から市役所を通じて関係当局に要請しました。地元被災者、町内会などからの強い働きかけもあり、23日から緊急復旧工事が始まることになりました。

21日は地学団体研究会（略称・地団研）の立石雅昭新潟大学名誉教授など4人の研究者が名立区の東蒲生田、桑取地区の北谷、土口、板倉区別所の被害現場を視察しました。私は市議会があり、名立区の現場だけ案内させてもらいました。

研究者の皆さんは地質調査所の高田西部地質図を手に現場の状況をつぶさに見て、確認されていました。近く、現地調査の結果が明らかにされるものと思います。

市内各地で文化行事開催

市内各地で文化祭や音楽祭が行われ



写真上は名立区東蒲生田の土砂崩落現場。用水路があった所から下の集落方向を見て撮影（21日）。下は桑取地区の皆口で地元の人とともに土砂崩れ現場を見る藤野衆院議員、市議団（20日）。

ていま

19日は吉川小学校の文化祭でした。



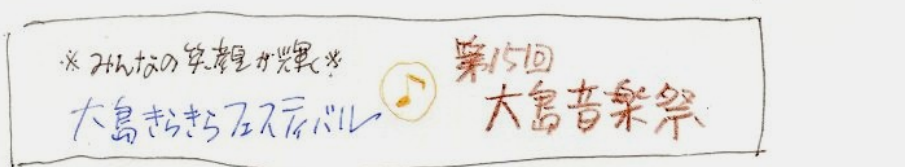
【センブリ】昨年が続いて再掲。リンドウ科の2年草。漢字で「干振」と書きます。全体に苦く、下痢や腹痛に効きます。草丈は大きいので30センチほどです。8月～11月に白い花を咲かせます。花には縦に紫色の線が入ります。花言葉は「はつらつとした美しさ」。22日、吉川区で撮影。

ました。大島区出身で東京都在住の田辺さん夫婦が今回も見事なダンスを披露してくださいました。

メインは音楽祭です。ここでは毎回、何らかの発見があります。今回は6年生の合奏、「風を切って」だったでしょうか、木琴の音がリードしたときの心地よさを味わいました。もうひとつ、4年生の出番の時、指揮をする2人の先生が指を鳴らしながら入場するというパフォーマンスも素敵でした。

大島区でも19日、音楽祭がありました。会場のふれあい館には出場者の家族のみなさん、地域のみなさんがけっこう大勢参加されていました。

大島区は「音楽のまち」としての伝統があり、「りんどう」ほたる合唱団など地元のグループが頑張って盛り上げてい



はしづめ法一の活動レポート

No.1931 2019.10.27
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五七九回

帰ろかな

有り難いもんですね。これまでかなりの間、忘れていた父のことをまた思い出すことができました。

思い出すきっかけとなったのは、先日、越後よしかわ酒まつりです。

この日は午前中、雨がぱらつききました。会場内のお店をひと通り見て回った後、来賓席のテントの中でしばらく休ませてもらいました。そこにいたのは私と吉川区在住の杜氏の大ベテラン、Yさん、新潟酒造技術研究会のKさん、日本酒造杜氏組合連合会のHさんなど数人でした。

テントの中では空模様の話から始めて、様々なことが話題に上りました。

利き酒に二〇〇近い銘柄が出ていたという話の時だったでしょうか、私は岩室(旧岩室村)の酒蔵、宝山酒造を訪ねたときのことをみなさんに話しました。その内容を再現するとこんな感じでした。

何年か前ですけどね、宝山へ行ってきてんですよ。そしたら、親父のことを知っているお母さんがいらして、懐かしがってくださって……。蔵の中を案内してもらったら、(酒造りをする人たちの居場所であった)ヒロシキはそのままだったし、風呂場も、食事の時に使う物を入れる引き出しもそっくり残っていたんですよ。親父たちがいた頃、あそこへは県醸造試験場にいらした嶋悌司さんも時どき行かれ、嶋さんはそこでいろいろ学ばれたと親父は言っていましたね。

私の話を聞いて、Yさんだったか、Kさんだったか、いやー、嶋さんはあの頃、毎日のように宝山に来ていなかったこと……と感づいてくださいました。

じつは、Yさんは、宝山酒造で父と一緒に仕事をされていたのです。頑固なところがある父でしたので、嫌な思いもされたことがあると思うのですが、Yさんは懐かし

く当時の思い出を語ってくださいました。

そうこうしているうちに、酒造り唄の時間がやってきました。Yさんは酒造り唄保存会のメンバーです。数人のメンバーとともに中央舞台へ上り、三曲ほど披露してくださいました。

唄を聴きながら思い出したのは父の「三ころ突き」です。

「おじい何処きやるこらやのや おやじの代から三代伝わる桐木どーらん 菜っ葉にはぜ飯 おっかの分まで てっちり詰め込み 裏の板山へこらやのや 芝刈りに」

父も酒造り唄が大好きで、祝い事のあるたびにこの唄をうたっていました。息子が言うのもなんですが、人に聞いてもらっても恥ずかしくない唄いっふりでした。

思い出というものは面白いもので、一つの思い出と出会うと、ちょっとした拍子に別の思い出もつながついてきます。

酒まつりの日から一〇日ほど経った日、思いがけなく、父の最後の歌の音声記録が見つかりました。

この歌は父が亡くなる五か月前に歌ったものです。父が入院してからすでに一年経っていて、父は口から食べ物をとることもできず、しゃべることもできなくなっていました。曲は千昌夫の「北国の春」。父の大好きな歌謡曲の一つでした。

この日は家族の者が父を励まそうと、ベッドのそばで「北国の春」を小さな声で歌いはじめました。

♪白樺青空南風 こぶし咲くあの丘 北国のあ北国の春 季節が都会ではわからないだろと 届いたおふくろの 小さな包み あのふるさとへ 帰ろかな

このタイミングで、突然、父が大きな声で歌ったのです。「帰ろかなー」と。ちゃんと聞きとれる父の「帰ろかなー」に出合った私は、胸がいっぱいになりました。

「住民自治を進める会」の結成15周年で宗野教授が講演



「住民自治を進める会」の結成15周年記念講演会が19日、頸城希望館で行われました。

講師は滋賀大学の宗野隆俊教授。宗野さんは、「地域内分権と住民自治に立脚した上越市の将来」というテーマで講演されました。

宗野さんはまず、平成の大合併を振り返り、国主導であったことを指

摘し、「『分権』ではなく『中央集権』の時代だった」とのべました。そして、地域自治区をめぐる全国的な動向について話を進め、全国的に見ても地域自治区の導入は少なく、「協働型」の地域自治組織が圧倒的だと、語りました。その後、アメリカはポートランド市の「近隣の参加」の仕組みについて詳しく説明、「様々な人が、自治会や諸団体の属性を離れて集まり、語り合う機会があってもいいのでは」「市と地域の間にある地域自治組織を市と市民はどう活かすかが課題」などとのべました。

(写真は宗野教授)

「核のゴミ」地層処分を考える

政府は原子力発電所から出る使用済み核燃料などを地下300メートルに埋めて処分する計画を進めています。上越市の一部もこの処分に「好ましい地域」とされています。安全性はどうか、どう処分すべきか、一緒に考えてみませんか。

日時：11月6日(金) 19時00分から

場所：上越市民プラザ2階

講師：金井克明さん(地学団体研究会会員)

主催：つなげよう脱原発の輪 上越の会

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月16日(水)	10月23日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.067	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.050